

令和 6 年度第 1 回茅ヶ崎市松林公民館運営審議会定例会会議録

議題	1 令和 6 年度主催事業の報告について 2 答申について 3 その他
日時	令和 6 年 5 月 2 8 日（火） 1 4 時 0 0 分から 1 5 時 0 0 分まで
場所	茅ヶ崎市立松林公民館 2 階第 1 会議室
出席者氏名	会長：細田 勲 副会長：吉原 敏明 村松 章生、大澤 知行、上村 純夫、沖山 紗也香、町山 智子
欠席者氏名	
会議資料	・ 令和 6 年度第 1 回茅ヶ崎市立松林公民館運営審議会次第 ・ 資料 1 令和 6 年度主催事業の報告について ・ 資料 2 答申参考資料
会議の公開・非公開	公開
非公開の理由	—
傍聴者数	0 人

事務局 ただいまより、令和 6 年度第 1 回茅ヶ崎市立松林公民館運営審議会を開催いたします。

本日の会議は、茅ヶ崎市立公民館条例施行規則第 1 3 条第 2 項の開催要件（過半数以上の委員の御出席をいただいております）を満たしておりますので、審議会を開催させていただきます。なお、本日傍聴のお申し出はございません。

次に、本日配布した資料の確認をいたします。

（配布資料確認）

- ・ 令和 6 年度第 1 回茅ヶ崎市立松林公民館運営審議会次第
- ・ 資料 1 令和 6 年度主催事業の報告について
- ・ 資料 2 答申参考資料

（追加資料）

- ・ 答申書（案）（吉原委員）
- ・ 公民館運営審議会名簿（令和 6 年 4 月 1 日）

ここで、委員の変更についてご案内させていただきます。

羽場 由佳子先生が校長先生になられたため、後任である町山 智子先生が委員へと選出されます。委嘱式および町山先生のご挨拶をいただきます。

(委嘱式を実施)

(委員一同 拍手)

それでは、町山先生ご挨拶をお願いいたします。

町山委員 4月から中学校教頭となりました、町山です。初めての教頭職ということで着任して2ヶ月経ちましたが、まだ右往左往しております。前職4年間、教育委員会に出向しておりましてその前までは中学校、市内2校、相模原に1校、中学校家庭科の担当として勤務してまいりました。日頃からお世話になっておりますが、今後、審議会でも貢献できればと考えております。よろしくお願いいたします。

事務局 町山先生、挨拶ありがとうございます。
それでは議事進行につきましては、茅ヶ崎市立公民館条例施行規則第13条第1項に基づき、細田会長に議事進行をお願いいたします。

細田会長 議事を進めてまいりますが、この会議は公開となっています。会議録を作成するにあたりまして、「茅ヶ崎市附属機関及び懇談会等の設置及び会議の公開等運営に関する要綱」により、委員に確認し記録を残すことになっております。確認については、会長一任としてよろしいでしょうか。

(各委員賛同)

細田会長 それでは、「議題1、令和6年度主催事業の報告について」、事務局説明をお願いします。

事務局 それでは、議題1 令和6年度主催事業の報告についてご説明いたします。資料1をご覧ください。

令和6年度4月から5月に開催いたしました主催事業についてご説明いたします。資料1をご覧ください。

各事業5公民館連携事業は、現段階で実施されておりませんので、主催講座のみの報告となります。

1 子ども事業では、新たに「誰にでも描けるパステルアート」を実施しました。パステルキットを使って、簡単にできるアート教室です。2回実施しておりますが、年齢性別関係なく、初めて行う作業に皆さん熱中していました。

初回にキットの購入が必須となりますが、帰宅後も自宅で行えること、2回目以降は費用もかからず参加できることから、参加者も多く、リピーターがはじめているようです。

また、「こどもの献立のない料理教室」では、子どもたちが献立決め、買い出し、調理までを行う企画です。

カレーライスとフルーツポンチを子どもたちが作っている間、保護者達は、公民館に飾る紙工作を行い、本日も1階ロビーに展示されています。ぜひ、お帰りの際にご覧ください。

2 家庭教育支援関連事業につきましては、「子育てホッとスペース」を対面で開催しました。例年、力を入れている事業ですが、今年度は室田保育園と連携し、保育園の先生が歌や遊びを行う「のびのび広場」も実施しています。地域の子育て世代と保育園を繋げることで、子育て世代には保育園を身近に感じ、相談しやすい機会を提供することができ、保育園側には子育て世代のニーズに直に触れ、課題を抽出する機会を提供することができています。今後お互い良い関係性を醸成できればと考えています。

「ぴよぴよアトリエ」は1歳児からを対象に、簡単な工作などを通じて感触を知り、物作りを通じて、作品が出来上がる喜びや触れる楽しさを体感する事業です。お母さんたちが申し込みをしやすいように申込フォームの受付としていますが、5月は4組と申込が少ない状況でした。

先ほど報告いたしました「子育てホッとスペース」で講座を知り、そのまま申し込むという流れを作る方が向いているかもしれないという気づきがありました。自宅に帰ってからもう一度見直す時間さえ、現代のお母さんにはないため、来館や講座に参加した「ついでに」、他の講座に申し込むというサイクルを作り、公民館に定期的に来館する仕組みを検討する必要があるようです。

3 シニア事業におきましては、松林赤とんぼクラブを開催いたしました。これは、松林地区包括支援センターくるみさんとの共催事業で、シニア向けの体操教室です。ボランティアの高齢者支援リーダーの方々と茅ヶ崎体操などが行われ、好評いただいています。身体を動かしたいシニアが多い反面、体調不良の方も5月は6名ほど（参加者母数は36名）みられました。気温や気圧の急激な変化からも体調を崩しやすくなっているため、今後もこまめな水分補給や健康小話等も盛り込んで参加者の体調管理には細心の注意を払う予定です。

4 地域課題解決等事業では、「おとな倶楽部Candy」として、子育てが一段落した世代を対象に、クラフト工作や手芸等を展開しています。4月は、レザークラフト工作を実施。1人ではできないモノづくりをしながら学ぶ楽しさに触れる、地域の中で顔見知りを作るという2つの観点から、成功事例といえる事業です。もう少し時間がかかるとは思いますが、将来的に参加者が定着してくれば、サークルの立ち上げも可能になるのでは、と見込んでおります。

「卓球開放」は、4月の繁忙期を避け5月からの開催としています。老若男女問わず多くの参加者で賑わいを見せています。初心者の中学生在が道具

の揃え方やラケットの持ち方などを聞きにきたり、シニア世代と孫世代で楽しく交流したり、日頃の運動不足解消・自身のレベルアップのため等、多種多様な目的で利用されています。担当されている卓球サークルの方は初めての方との交流を楽しみながら親切な指導してくださっています。課題としては、2つのサークルに前期と後期5回ずつ開催協力をお願いをしていますが、サークルの高齢化が原因で毎月1回の開催が負担になっているようです。体育館の改修工事に伴い、卓球サークルの新規登録もあるため、開催協力団体を増やし、負担なく卓球を通じた交流を図る方法がないか検討しております。

5 博物館連携事業は4，5月の実施はありませんでした。

6 学習成果活用・学習情報提供事業においては、4月に春の山野草展を市役所1階の市民ふれあいプラザにて、5月には松林公民館で開催しました。毎年、展示を楽しみに遠方からも来られる方もおり、松林公民館の名物事業となっています。次回は秋に松林公民館での開催を予定しております。

また、今年は、遅ればせながら6月1日、2日に茅ヶ崎さつき会による「さつき展」も控えております。こちらも都合があいましたら、ぜひ皆様にもご覧いただければと思います。

主催事業の報告については以上です。

細田会長 事務局より説明が終わりました。何か質問はございますか。

(質疑応答・意見 なし)

細田会長 それでは、質問やご意見が無いようですので、次に移ります。

「議題2、答申について」3月に館長から「地域の方に公民館に来てもらう、公民館事業に参加してもらうために必要な方策について」の諮問を受けて、審議会として答申案を提出していただくようお願いしています。吉原さんから提出があったようですが、いかがでしょうか。

大澤委員 前回出席していなかったもので、そういった内容を把握できずにおりました。

事務局 こちらからの御連絡が遅くなっており、申し訳ありません。

大澤委員 それで、経緯についてちょっと質問があります。

本当に公民館のニーズが減っているのでしょうか。

この答申というのは、茅ヶ崎さんを見ると、どこの公民館でも同じテーマで答申してますよね。ということは本当に茅ヶ崎市の公民館の活用っていうのは、以前に比べて減っているのか。多分減っているところはあると思うんですが、松林公民館はどうなのか。

まず、私はそんなに講座に出たことはないのですが、この前の公民館まつりが、ものすごい活況だったので、結構皆さんに利用されてるのかなと思ったんです。

この答申を打ち出す以上その課題がどこにあるのかがわからない。例えば、年代別の方が特定の層に偏ってしまっていて、ある年代の人が来ていないとかそういう点を少し教えて欲しいです。

事務局 はい。全体的には、やはり少しずつ減ってるということで、今登録されてサークルが高齢になってきて、サークルをやめているサークルもあります。小学生とかは学校あって勉強しに来たり、ゲームしたりなどで来るんですけども、高校生ぐらいですと、なかなか利用は少ない感じです。

もともと公民館を利用されていた方々に日々使っていただいているんですけども、その方たちも高齢化に伴って、来館できなくなってきたりサークルがなくなってきたりしていて、少し減ってきているというところです。

大澤委員 サークルが減っているというのが課題ですか。

事務局 まず、講座を開催すると、来るんですけど、講座がないとこないというのが問題だと思うんですね。何かをやってるから来るっていうよりは、自分たちで何かしたいから来るという形にしたいです。社会教育の場なので、ステップアップしていただくというのが公民館としての存在意義なのかなと。

一番課題なのは、以前4～5個もあった子育てサークルが、昨年度末でゼロになったことです。

(委員一同 驚き)

事務局 なので、どんなに講座を立ち上げてやっても、若いお母さんたち、お父さんたちが、ここの館の利用をしていない。ただ集まるだけで、ここから何かをしよう、みんなのために何かしようという動きが今ちょっと低下しているかなと感じています。

その関係で、昨年度、松林おとな倶楽部C a n d y（キャンディ）という子育てが一段落した世代の方を対象に、集って、趣味をするための講座を立ち上げました。そういった理由で、この公民館を使ってもいい、何かこういったことをやってみたい、みんなで、地域でやってみたいという考えに発展していただければいいなとは思っています。

ただ、サークルの立ち上げとなると、私たちが責任を持ってやらなきゃいけないという声が多くて、サークルの立ち上げには消極的なんですね。そこがこの公民館の課題なのかもしれないです。

大澤委員 私はそれが課題とは思わないんですよ。

自主的にやる、自発的にやるというところ。例えば、結構音楽サークルだって多いですよ。それは、好きな人が集まってやっててすごく、たくさんいる。沢山人数のいるサークルもあれば、もう本当に少ない4～5人でやってるサークルもある。それは、ちょっと仕方ないんじゃないかな、という気もちよっとあるんですが。

事務局 公民館を、好きな人が自発的にやるから開放して待ってるっていう形になるので、公民館の利用率自体がまず、どんどん下がっていくイメージです。そうすると他からどう見えるかというと、何も利用されてないんだったらいらぬのかと思われてしまう。

公民館ができたときのメンバーからしたら、そうではないと思うんです。地域の活動拠点の一つでいいとは思いますが、地域の活動を高める、機運を高める場所だと思っています。顔見知りを作って、楽しいことをするのはもちろん、何か課題や困ってることがあるなら、みんなで解決する場にしていただきたいのですが、そういった場所に、集うということ自体が、コロナ禍で希薄になってきてしまっている。何か問題が起きてもそれは個々人の問題だと置いていかれてしまう状態を作るのは、行政も地域も望まない形なのではないかと。

館自体には来館はしていても、自分たちから発する、動き出す力が弱くなってきていると感じています。今利用されてる方たちはいいんです。その方たちが高齢になってどんどん辞めていった時に誰も使ってる人がいないっていう状態になってしまうことが課題かなと。

沖山委員 サークルの立ち上げを増やしたいというよりは、新規の利用者を増やしたいということでしょうか。

事務局 そうですね。新規や若い方、長期的にここを利用していただける層をもちろんシニアも含め、活性化したほうがいいかなと思っています。

昨年度の公民館まつりは模擬店があったから、多くの来館者があったんです。来館者がすごく多かったのですが、その前の年は模擬店がありませんでした。模擬店がないと、一気に来館者は激減します。利害関係とまではいきませんが、自分たちが何かをもらえるから行く、何かを買えるから行くという状態になってしまっていて、ここの公民館まつりが楽しいから行くっていう状態にまで到達していません。

〇〇ちゃんの作品が展示してあるから行こうとか、音楽サークルの方がやってるから聞きに行こう、あそこに行けば何か楽しいことがやってるという、動機ではない気がしています。

沖山委員 講座をこんなにたくさんやっていますよという話を前回聞いて、今回も事業計画表を見たんですけど、私はこんなに講座をやってるってことをまず知りませんでした。ということは告知が足りてないかなと。娘と息子が、松林中学校と松林小学校に通ってそれぞれお知らせの手紙、公民館の講座のチラシ等をもらうんですけど、あんまり興味を示さないで行ってみようよって、こんなもの作ったりできるんだよって、声掛けをしても、「ん〜…（いかなくて）いいかな」ってなってしまうって、親子で、子供だけで講座に参加したことは1回もないです。よくわかってない親の人が多し。でも楽しいなってわかってる親御さんたちは、「ほらほらまた講座があるよ」って何回もリピートしてるので、そういう場ができちゃってるのかなと。

では、新規来館者をどう獲得していくかということが吉原さんの案に書いて

あるんですけど、無理やり行かせる。ちょっと言葉悪いんですけど、例えば、回覧したり、SNSをボランティアの人にしてもらってもいいと思うんです。

でも一番人をふやすのは口コミだと思うんですね。

「よかったよ」「一緒に行こうよ」「へえ〜」って友達同士や子供同士で「この公民館の講座、楽しかったよ」という、口コミですね。その中で、例えば、いつもの先生に漬物教室とかいろいろ講座だと思うんですけど、いつもの先生、地域でお料理が上手なおばちゃんとかいるじゃないですか。その人にちょっとやってみてよ、と頼んで、「え〜私なんか」となると思うんですけど、「いやでも、おいしいからみんなに教えたいな」という感じでやっていくと、初めてやる人、声をかけた人も責任感が生まれて、新しい利用者が参入できるきっかけになるんじゃないかなと思います。

ママたちが本当に今忙しいっていうのは、私も母親なのでわかってるんですけど、ママのサークルを立ち上げるにはどうしたらいいかなと考えたときに、今、子育てサークル、赤ちゃんサークルがなくなっちゃったっていう話がありましたけど、例えば何年度の何月から何月まで、に生まれたお子さんたちかなり仲良くなりましたよね。それから幼稚園に入りますよね。

(未就学児の時に) ここから皆さんで、もちろん保育室を使っていいから、楽しく月に1回、サークルをサポートするからやってみませんかとかこっちから働きかけて、そしてサークルをたちあげる。でもそれって、幼稚園入っちゃうと終わっちゃうじゃないですか。

だから、同窓会作って、入園や夏など集まりやすい季節でいいので、そういう子たちが、あのとき一緒に子育てしたよね、という風に、ここで一緒に遊んでた子供たちが集って遊べる機会を作る。手紙を出さなきゃいけないけど、その子たちは強制的に対象者なので、来るきっかけになるかなと思いました。

何年やるかというのはあるんですけど、子供たちが集まった時に評判の良い講師が来る。ママたちは違うことをする、もしくはママたちだけでもお茶してきてくださいよって言いながら、近隣のお店を照会して交流を持たせる。これは、地域の関係性作りでもあるかなと思います。

ゲームだって、例えば公民館に資金があるなら、スイッチを1つ買ってプロジェクターに映してゲーム大会とか、大人も子供もっていうことだってしてもいいんじゃないかな。それこそゲーム持っていない子もいるだろうから、ちょっと楽しめたらと思います。

大澤委員 あと夜はいつまで開館しているんですか。

事務局 21時までやっていますが、小学生たちは、17時(夏季以外は16時30分)ということでやっています。

大澤委員 私、この事業計画を見たときに、確かに子育て世代それから小学生ぐらいのものは多い。中学生、高校生は、それからあとサラリーマン達、例えば6時とか7時にきちんと帰ってこられる人もいる。女性でも男性でもいいんだけど、そういう人たちが行きたくなるようなカリキュラム、例えば定期的にこれがあるから7時には絶対この講座に来るんだという講座がない。

それからシニアの人たちが、本当にこの講座は、私はもうシニアだけど、体操とか、踊りだとかそういうのには全然興味がない。だけど、例えば歴史とかね、すごく好きな人いるじゃないですか。

そういう講座が多少あると、「あ、行ってみよう」となる。そういうのにリンクしてないのかなというふうにちょっと思ったんですよね。

あと、本当に中学生や高校生来るんですか？どうですか。

中学校にはいろんな案内が行っていると聞いているのですが、どうですか？

町山委員 中学生はとても忙しいです。見ててそう思います。

特に部活が18時まで、塾に通っている子もいるので、そういう子は19時～21時半という生活を送っている子も多いです。

そこから家に帰ってきて、「夜、公民館行ってくるね」という時間帯ではないし、親も許さない。そのような生活を送っていて、部活がない日に公民館に行こうか、というのも難しいかなと。

その一方で、公民館に勉強しに来ている、という風景を見かけることもあります。ただ、集団で勉強していて勉強してる間に、いつの間にかうるさくなってお電話いただいたこともあります。でも、その時に、やっぱり中学生も公民館に行くんだなあということがわかります。

その案件は、コミュニティセンターだったので、今時なカフェ風の造りだったので、案外行きやすい雰囲気だったのかなと思います。

沖山委員 オシャレですよ。

町山委員 そうです。居心地がいいというのがあるのかな、と思います。

上村委員 まちぢから協議会の子ども部会がやっている「かんがるうのぼっけ」というものがあるんですが、場所が取れないんですよ。ここ1ヶ月ぐらい予約が取れない。久々にあったんですが、中学生や高校生が小学生のゲームの話をしているんです。カードの話とかね。友達と先週、パソコンを持って辻堂にあるカフェみたいなのところに行ったんです。場違いだなと思ったんですが、1時間いくらか払って、飲み物のみ放題でW i F iがあって、仕事している人もいます。ちょっと行きたくなる場所なんですよ。

でも公民館はそうじゃない。もう少し行きたくなるような場所にしたい方がいい。

沖山委員 わかります。新しくするのはお金があれば、いくらでもできる。でも現実問題そうではないですよ。だから、古民家カフェみたいなイメージにしたいのでは。T i k T o kとかあげたい。そういうものがあるだけで、人は集まるし、ここどこ？となる。「実は公民館」となったら、ちょっと行ってみようかな？ってなる。何かを置くだけでも、ちょっとおしゃれになる。写真を撮りに来る。映えるということが大事。ママたちもオシャレな場所で過ごしたい。

上村委員 わかります、わかります。行きたくなる場所。

沖山委員　例えば、喋ることが女性は大好き。でも、女性が喋れる場所が少ないじゃないですか。でも、ここがそういう場所だったら、私はすごく来ますね。

そういうことだったら、実際に子供の頃から、その辺に住んでるんですけど、毎日のように来てました。それは、お喋りをするため。公民館の窓口でUNOなどのカードゲームも借りたし、夜になって閉館してもっとその辺にいて、それこそ通報されたこともありました。そのぐらい公民館の居心地が良かった。

細田会長　今ちょっと言葉の中で、一番大事なことがありました。「居心地の良い」という。公民館というのは、居心地がよくないと来ないですね。

事務局　確かに放課後は、小学生も中学生もちょっと特定のメンバーにはなりますが、利用はあります。日中も、またこれも特定の方になりますが、パソコンでずっと過ごされてる方もいますし、定期的に夜、ここに来ることが日課になっている方もいらっしゃる。ロビーだったり玄関だったり、自由に出入りしてくれるところは、比較的皆さんおっしゃるように、にぎわいは見せています。ただ部屋は閑散としてるっていう感じになります。

あとは、夜も講座をやった方がいいんじゃないかという話もあります。ただ、昨今ワークライフバランスの問題が出てきて、もちろん、打って出たいのですが課題も多いという現状です。

ただ、皆さんからのご意見は沢山ほしいので、ざっくばらんに答申案を考えていただければと思います。

答申案の資料の2になりますが、相模原の社会教育委員会で昨年12月に興味深い調査研究を行っておりまして「もっと〇〇〇公民館、〇〇〇に何を入れますか」というものですが、お時間がある時に、ご覧ください。50ページぐらいあるので、印刷は控えさせていただきました。

最初に配布した資料が、目次と中身の抜粋です。この〇〇〇のところに、「親しみがある」とか「使いやすい」とか、「ゆとりのある働き方ができる」とか、「PR上手」だとか、いろいろ皆さん好きなテーマを入れて自由に書いてあります。裏面に、その一つの案が書かれています。

結構わかりやすく書いてあるので、こういったものを答申案の参考にしていただければと思い、参考につけさせていただきました。例えば公民館に愛称をつけるとか、公民館のドアを改造しちゃえばいいんじゃないかといったものです。

大澤委員　課題で気になったことがあります。

高齢化が進んでしまって、サークルがそのまま潰れてしまう。そうなってしまうというのがすごく気になる。どこでもそういう言い方をしますよね。つまり、次の世代へバトンタッチできていないということですよね。例えば、卓球を楽しむに地域の人は来るんだけど、管理する人が高齢化してこれなくなってしまうから、2回に1回にしようとか。これってすごく悲しくないですか。身体の調子が悪くなった人はリタイアしてもしようがないし、構わない。

でも、次の人にバトンするタッチする方法ができていない。こういった運営している側（サークル・公民館）にも問題があるかもしれないけれども、そうい

う仕組みがないうちに始めちゃった。

それこそサークルを始めたときは、40代だったんだけど、20年間続いて60代、80代になったらもうそれでね、終わっちゃったという。長くやったことが良かったかどうか。本人たちはよかったかもしれないけど、結局受け継いでないわけですよ。

事務局 そうですね。

今回、5月に開催した、卓球開放のときも、こちらもちよつと連絡、うまく伝わってなかったこともあって、サークルさんが準備できなかったことがあります。運営側でももちろんすぐ出すこととかできるので、逆にそこで参加者、参加しに来た人たち、一緒にやってもらったんです。

設営用なので、そういった仕組みも、教えてくれる人がいなくても、自分たちでできるっていうようなバトンタッチの仕方がもしかしたら、今、担当者がいてもいなくても、ここに集まった人たちでやれるじゃないか、という気持ちが醸成できていけばうまくバトンタッチできたのかもしれないですね。もしかしたら何でもかんでも公民館に行けばやってもらえるって思っていると自分たちで何も調整しない可能性はありますね。

大澤委員 ボランティアの人がね、前いたっていうのは聞いたんだけど。

コロナ禍以降ボランティアを採用しないようになってしまった。茅ヶ崎市全部がそうです。

それは理由があったのかもしれないけれど、ボランティアの人にそういう、例えば、中学生とか高校生に交代すればよかったですよ。高齢者にお願いするのではなくて。アルバイト代わりにやってもらうのもいいですよ。多少日当を払う等して。そういうつながりを持てればいいですよ。

沖山委員 内申に反映できればいいですよ。高校生だけですかね。

中学生がボランティアに来たら進学のとくに、ちょっとプラスになるとか。

町山委員 今、公立は、そういうのはやっていません。自分でしゃべるアピールとしてはできます。ただ、内申点には一切反映されません。なので、自分の中で地域貢献をした気持ちがもてること、自信をもって喋ることができるといいなと思っています。（市外に通学している）高校生も地元まで帰ってきてバイトできれば保護者の方も安心ですよ。

沖山委員 保護者は安心ですね。

町山委員 ちょっと若いお兄さんお姉さんがいたら、子供たちも公民館に来やすいですし。

大澤委員 高校の卓球部に来てもらう、というのも1つ手ですよ。中学校の卓球部はできないかもしれないけれど。そうすると繋がりができてくるし。

町山委員 中学校はやってたけど、高校でやるのはちょっと本格的すぎるとか、遠いとかで、結構高校に入ってから部活をやらない子も多いんです。そういう子がたまにはやりたいからでやるっていうのも、もしかしたら需要・供給があるかもしれないです。高校はちょっと本格的で、ちょっとおおよび腰になる傾向があるようです。

沖山委員 いろんな理由があるんですね。でもいいですね、ボランティア。ちょっとでもやりたい気持ちがあったら、集まりますよね。

細田会長 公民館だけじゃなくて、地域の自治会なども含めいろんなものの伝統継承していくという話は出てます。

やっぱり、「高齢化による」という現実はそのなんですけど、口にはあまり出さないようにしている。高齢者の方が、次期のステップの人間に物事を渡していかなければならない。さらに、それやりたくないっていう若者が多い。本来、見様見真似でいろんな理由でいろんな伝統というものを教えてきたんですけど。私なんかもそうでした。でも、受け取る方がそういう環境になかなかなくていい。

こういう質問をよく受けるんです。ボランティアに対して、どこまでボランティアなんだ、どこからが有料なんだ、と。こういう質問に対して、ちょっとびっくりしますけどね。

確かにそういわれてみると、ボランティアでできる限界ってあるんだな、と。ここまでしかできない、これ以上は私としてはできないという部分が有料化されてきているかなと思ったんです。

若い方、特に中学生から大体主に高校生と懇親会みたいなもので話し合う機会があるんです。でも、我々が昔考えていたような、当たり前前に覚えて当たり前を知るっていう短絡的な感覚がない。現実的っていうんですかね、そういうものが若い人たちにはまだあってそれが伴って行動してる部分もあります。

ですから、地域で行われてるいろんな伝統芸能の継承させていく、どう継承してもらうか、がこの地域の課題だと思います。

沖山委員 今の若い方はすごい忙しいってとても聞きます。

確かにパパたちも結構忙しくて、おじいちゃんおばあちゃん住んで、子育ての助けになる人が多い、いっぱいいるっていう家庭は少ないと思うんですよ。今までだったら、おじいちゃんおばあちゃんがいて、お父さん、お母さんが少し楽な気持ちになったり、家事に慣れていく時間があつた中で、核家族化が進んでいってずっと働いてなきゃいけない。ずっと1人で子育てをしなきゃいけない。自分の息抜きも、やれないよっていう状況で、じゃあボランティアを息抜きでしてみようって、いう人は少ないと思います。

本当だったら、会長が言うように今まで通りやりたいっていう人がたくさんいて、皆で学んで皆で大切にしていこうというのが理想的だと思うんですが、それがなかなか叶わないので、外部の手を借りたりとか、そういう時期・時代に移ってきてるのではないかと思います。

大澤委員 学生さん、高校生・大学生、例えば文教大学の学生さん達に対して本当に声をかけたことあるんでしょうか。僕たちが学生のときだったら面白いなと思ったら、ちょっと行ってみようかみたいな感じになりますよね。

そういう地域の人とね、仲良くなるチャンスもあるし、新しい人達とも交流できるようになるし。多分声かけてないですよ、高校にも。高校はここだけでもたくさんありますよね。鶴嶺高校、茅ヶ崎高校とか。

今の高校生なんか、マクドナルドとかもうそこら中でアルバイトしてるじゃないですか。他にも、ちょっとサッカーをしてるような子供たちが、ここに教えにきたらいい。絶対いると思いますよ。

例えば料理なんだけでも、高校の料理クラブの人たちが、ちょっと公民館でね、大人たちを相手にやってみるとか、そういう発想がない。どんどん出てくるはずですよ。高校生とかそういう人に相談してないんじゃないでしょうか。

事務局 依頼をさせていただくことがあるのですが、どこかで話が途切れてしまう。

私たちが依頼して、こんなことをしてみないか、こういったことを手伝ってくれないか、と持ち掛けていますが、どこかで話が途絶えてしまう。なので、例えばボランティア部とか、美術部に何かお願いするとか、狙いを定めていかないと、なかなかそういうところに、声が届かない。かけたとしても逆に生徒さんが、消極的だったりすることもあるって、うまくいかないことがあります。

大澤委員 絶対そんなことないですよ。先生に言うから駄目なんで、そのクラブの学生たちに言ったらいいんですよ。いつだったか、鶴嶺高校が新聞に出ていたんです。本当にボランティアみたいな。

事務局 アプローチの方法を考えないといけないですね。

大澤委員 その実現は来年度だっていいんでしょう？急にやらなくてはいけないものではない。でも、そういう学生さんは絶対いるし、面白い。

沖山委員 （地域や講師の）皆さんに教えてもらうんじゃなくて、学生さんたちが（地域の人などの）皆さんに教えるのは、楽しそう。教えるのは、難しいですよ。

大澤委員 多分女性だから、刺繍などの手芸など、皆さん好きじゃないですか。結構女性センターだと人気あるんですよ。

だから、そういう若い人と年齢が上の人たちが一緒になってそういう教室に行くらしいんですよ。年代を偏らせない。高校のクラブみたいなのに、打診してみると面白いなっていう。そうすると、自然になんか後継者ができてくるんじゃないかと思います。

沖山委員 違う例ですけど、松林公民館で「ふくろう塾」というのをやっていますよね。

事務局 やってますね。

沖山委員 あれをもっと宣伝したほうがいいんじゃないかと思うんです。勉強するところがあるかわからないんですけど…

事務局 勉強一緒に、やっていますね。実習室と和室で。

沖山委員 子供たちの勉強を見てくれて、4時から来ると一緒に夕飯を一緒に作れて、ごはんの後、勉強終わって、しゃべって帰る。娘に話したらすごく興味があって、勉強ができててもできなくても、いろんな年齢の人とか、関係ができるって大切なとこだなって思います。この話は、調べても出て来ないし、あとは開催が少ないなと思います。子ども食堂っていうのでしょうか。駅の方では結構あって、この辺にはない気がするのですが。

事務局 そうですね。前は公民館の他に、もう一つ拠点があったんですが、個人の方のお宅をお借りしていたものがなくなってしまったようです。

沖山委員 ちょっとずるいかもしれませんが、モノでつるのが一番いい気がします。子供食堂だったら、モノというより、やっている人に会うことがそうなのかもしれません。ふくろう塾は、利用料金もないですよね。たしか、自由に来て自由に帰る感じだったと。

上村委員 子どもは無料。大人は、300 円です。

沖山委員 すごいと思いませんか。

細田会長 「ふくろう塾」は、まちぢから協議会の運営です。そこを卒業されたら、大学行ったりして、逆に教えに戻ってくることもある。そうやって、今度は先生になる人もいます。

もう少し広げたいなと思っていますが、なかなか。多いときで、参加者は10人ぐらいですかね。次に繋げたいですね。

上村委員 子供はね、勉強するよりお話をする方に夢中になってしまいますけど。

沖山委員 そうですよ。でも、そういう感謝の気持ちがめぐりめぐってこう還ってくるんだなと思ってるので、私は「ふくろう塾」素晴らしいと思うので、もっとアピールしたいです。

細田会長 それでは、諮問に移りますね。お手元に、吉原委員の資料をご準備ください。

吉原委員 諮問ですね。地域の方に公民館に来てもらう、公民館事業に参加してもらうための必要な方策です。まず最初に、公民館に行きたくなる、もしくは、来なくてはならない事業を用意すれば、ようもなく来てくれると考えます。

同様に、集客目標、対象者ごとに細分化することも大事と考えます。

コロナ禍の時に、公民館で消毒薬を無償で提供したことがあります。

ただ、これは本来の事業ではなかったと思います。自主事業の種々選択を検討し、選定されていることは理解しています。

しかしながら、事業選定の過程については、わかりません。公民館運営審議会

では、ほぼ決まった事業についての可否の審議しかありません。公開された公民館自主事業を見る機会や、求める意識がなければ宝の持ち腐れです。

昨今はプッシュ型の情報を提供することもあります。そもそも受信の用意がなければ、受け取れません。少なくとも情報が欲しい人には、届くようにすべきかと思います。できれば欲しい情報や関連する事業の検索や予約機能、開催通知を受け取れると嬉しいです。自主事業の土曜日、日曜日、休日夜間開催が望まれます。

また、興味を持たれる講座の開設を検討願います。

例えば、今どきのN I S A、就活、お酒の話、最新デジタル技術、地域の歴史、ニュースポーツ紹介、話し方教室、文学講座、経済の話、麻雀初心者、落語実践と、思いつきですが、琴線に触れるような講座があれば、より積極的に参加していただけたと考えます。参加することにより、勉学意欲の向上や知識力の向上など、友達の輪も広がり、更なる事業の参加に繋がると考えます。

あわせて、参加者アンケート結果の分析と、利用者目線で講座開設が参加者の増加をもたらすものと考えます。

事業があるということにフォーカスしていただければ、若い人もお年寄りも来てくれるのではないかなと思うんですね。

老人会があるんですが、シニアは増えてるんですが、シニアの老人会への加入が少ない。お年寄りが来て、ここで何かさっきのお茶やジュースを飲みながら、そういうことができると、もっともっと利用しやすくなる。以上です。

大澤委員 公民館ではお茶を出したり、サロンみたいなものはしていますか。

事務局 公民館では、7月に利用サークルによる「うたごえ広場」が開催されます。以前は公民館と共催でやっていた事業ですが、公民館と一緒にできないという形にして欲しくなかったのが、主催サークルさんに、自分たちで工夫して回復してみてくださいとお願いしています。昨年1回やってみて、かなりの方が参加されています。

大澤委員 そういったものではなくて、いわゆるカフェみたいに話をするような講座はありますか。

事務局 主催講座としては、今やってはいないです。社会福祉協議会や民生委員児童委員の皆さんが、サロンを定期的に関いてくださっていて、毎月チラシを公民館に配架しています。

他の団体も開催している企画・講座を公民館として参画する、主催することが良いのかどうか、行政がやるべきことなのかという点も検討課題です。

大澤委員 社会福祉協議会や民生委員児童委員がやっているというのは知ってます。

この前、室田で人が集まって何かやりながらやってるなと思ったら普通の家なんですが、サロンをやっているんです。看板を出して、ミニサロンをしている。サロンという場所が、実際、かなり地区内で活発化してますよね。

結局、そういうところの方が楽しいからそちらに流れてしまう。テーマを設け

でも設けずにしゃべってもいいし、ひょっとしたら文学が好きな人は文学のことだけで話しているかもしれない。

事務局 それに近しい事業になると、おとな倶楽部C a n d yというお喋りをしながら、クラフト工作や編み物するという講座があります。ただ、喋って作っているだけでは、カルチャースクールになってしまうので、次に何作りたいていうところまで、落とし込んで、やりたいことや好きなことがないかというのを引き出している講座です。それはサロンに近いものがあるかもしれない。

それから子育てホッとスペースも出入り自由で、子育てを熟知した人たちがボランティアグループがサポートとして入っています。そこでもお母さんの時間を作るんです。子育てで疲れちゃっているので、マインドフルネスといって目をつぶってちょっと瞑想してちょっと自分を感じる時間をとったりしています。そういうところで、講座の案内をして、公民館でこんなことができる、息抜きができる場所なんだと認識してもらおう。そういった講座を公民館にくるきっかけ、要はハブにして、講座展開をする方が良いかもしれないです。

あともう一つは、講座ごとに反省会をした方がいいのかもしれないという意見が出ています。それがサロンになるかはわからないのですが、講座の後にお茶会のように、ちょっと自分たちで一品お菓子を持ってくる。そこで、今日の講座楽しかったね、もうちょっとこうだったらよかったなという話ができればいいのかなと。

吉原委員 さきほどのサロンの話は、どちらかというとコミセンの趣旨になるのかなと。公民館は、交流というより何か一つ勉強したよという部分が大きいと思います。

村松委員 2ヶ月に1回、火曜日にやっています。なぜ福祉部会がサロンを始めたかというと、さっきおっしゃったように、サロンというのは沢山あるんですよね。そのサロンが松林地区の中にいくつあるか、調べてサロンの人たちを呼んで自慢話をしてもらいました。

やっぱり、コロナ禍を挟んで1回止まってしまうとなかなか集まらないんだと。中赤羽根のサロンさんがやっとはじめた。すごい工夫してやっているのではないかと聞いてみたところ、自治会、社会福祉協議会、地区のひとたち、行政の人、読み聞かせが得意な人、沢山関わって、小さなものを沢山積み上げてやっているようです。

そのあと、車座で話し合いをする。その話し合いで出たことをすぐに次につなげる、アンケートもすぐに情報共有するということをやっている。

どこかで途切れてしまうのかも、と思っていたけれど、途切れずにやっている。サロンを1時間やって、そのあと、1時間話し合いをやっています。

大澤委員 さっき、場所が取れないという話がありましたよね。そこはどういうふうに、解決していきますか？

事務局 とれないという事象については、我々職員が取捨選択して、決めているのではなくてパソコンで抽選という形で、平等にやらせていただいている状況です。

とれない場合の大半が、希望時間が重なった場合、全部落ちてしまう。

もしくはサークル活動で毎月第2木曜日など、曜日を固定する方法で予約していた場合、落ちてしまう。新しいサークルを立ち上げて同じ時間帯はできないので、活動に繋がらない。

あとは、特に8月ですね。夏休みは子供たちが居場所を求める時期なので、主催講座がどうしても多くなります。

公民館の主催講座が第1優先として、予約を取りますので利用される皆さんに対して、ご迷惑をおかけしています。土日も同様です。また、4月5月も取りづらかったかと思います。というのも、自治会さんたちが、総会の場所を求めているとか、会議する場所が必要で、やっぱり人が集まるのが土曜日の午前中、平日はお仕事されてる方もたくさんいらっしゃるの、そういったところの兼ね合いからどうしてもそういった日取りに集中してしまうことはあります。

ただ、今後コミュニティセンターができたらかつていうのはわからない部分です。コミュニティセンターを利用する方向に動く可能性が否めないからです。会議だったらここでやらなくてもいいよねってなったらその逆に取りやすくなる可能性はもちろんあります。

社会教育施設なので、学びたい、自分たちでステップアップしたいと思っている方達にとっては、取りやすくなる可能性は出てくるかもしれません。

大澤委員 あともう一つ。講義は、学びの場ということで何かを教えたりしますよね。

その場合の講師はどのように、決めているのでしょうか。

事務局 講師については、やはり、地元の方をお願いしたいという点から、まず地域の人たちから声をかけています。地域に開かれた公民館ですので、地域の方は、講師の先生となり得る候補の一つです。また、同じ講座を何回も何回も受けていくうちに、講師になりうる方が育ってくるという事もあります。

この他に、どうしても地域の人達ではできないものもあります。例えば、普段やることがない講座ですね。例えば、海上保安庁に行くとか、そういったものは、やっぱり県だったり、海上保安庁で募集していたり企業がやっていたりする講座（講師）を依頼するということがあります。

大澤委員 こういうサークルをやりたいといったときには、講師も他から呼んでこないといけないということでしょうか。

基本的には地域の人達が、スタッフだけで何かやりたいといったとき、講師も連れてこないといけないということでしょうか。

例えばこういうことやりたいんだけど、ちょっと講師がわからないから、公民館から紹介してくれる、出してくれるとかいうようなことはやっていない。例えば、歴史の講座をやりたい、と言ったら専門家が必要ですよね。素人でもよく知っている人もいないかもしれないけれど。そうすると、その専門家の方を探さないといけない。そういう場合、講師の方ってそのように、見つけるのでしょうか。

事務局 専門的な場合は、過去には大学の先生をお呼びすることもありますし、市の行政の中で、学芸員と呼ばれる人をお願いし足ります。現在は、博物館が出来たので、専門職の人も行政側でいたりすると、そういう方を紹介することはできたりします。

大澤委員 それでは、テーマによってできることとできない事があるという認識ですかね。

事務局 そうですね。

村松委員 この間、茅ヶ崎市と岡崎市の講座がありましたよね。私は岡崎出身なので興味もって参加したんですが、その時も講師でしたよね。

事務局 はい。何をテーマにするか、講師の方が、得意にされてる分野がまち歩きとかであれば、まち歩きを視野に入れた講座になることもあります。CHIGASAKI 歩こう会にお願いすることもありました。

市主催の講座の中でも、子供たちの輪投げ大会がありましたが、吉原委員の所属している体育振興会にお願いして開催しているものもあります。

沖山委員 例えば、こういうことの先生ならできそう、なんか私のことを必要としてる人いませんかみたいな人が現れた時は…どうでしょうか。

事務局 そういう方もいらっしゃると思います。

ただそこに、やっぱりニーズがあるかどうか、要は自分の宣伝や営業になってしまふものに関しては、お断りさせていただくことも多いです。

子育てホッとスペースなどで、今は子育て中だからやっていないけれど、私これができるんです、という話になると「ここにいい先生がいましたよ!」となる。そういったご縁で、講師依頼をすることも多いです。参加者だった方が、他の場面で講師になるというところが、講師を探すときは地域の人という一番の決め手だと考えています。

町山委員 話違うかもしれないですが、今、息子が大学生で、バイトのシフトを前月に提出することになっているんです。自分たちの時代には、シフトを提出したところではもう何があっても行く、という感覚でした。ところが、今の子どもたちは違って、前日に空いてたらシフトに入るとか、スマートフォンがあるからやれる時にやる、という感覚。先々、予定がきっちり決まっているということがないんです。ガチガチに決まってるのは避けたいという部分をすごく感じるんですね。だからサークルでっていうと、毎月決まって、もう入っちゃったら何となく休むのも申し訳なくて休めない。でそうなるのが嫌だから、サークルを立ち上げたり、参加するのを躊躇してしまう。

その部分が、吉原さんの答申の中に書いてある、検索ができる予約機能が結構重要だと思います。空いてるから行こうとかそういう気質が、継続性という部分が難しい。継続性を最初から打ち出して、ぜひ継続してやってくれる人を探しますという部分に抵抗感を持つようです。それで、講師がいてってなると、日程の調整もあったりすると負担感が増すようです。

子供たちをみていて、意外だなと思ったことなんですが、中学生ってけん玉が大好きなんですよ。不要物になってしまうので、そういった品は預かることがあるんです。でも、周りの子が、「先生、この子けん玉すごいよ〜」というので、

前でやってもらったら、その生徒も嬉しかったようで、講師じゃなくても、得意な子集まれという雰囲気を作って、得意な子が何か教えるという時間、子供たちが来やすい雰囲気ができればいいのかなと。それこそ誰かに教わるのはちょっと嫌だという子も、同年代の中だったらやれたりするのかな、と思います。講座でもなく、何か練習会的な催しものがあったでもいいのかな。まずは来てみて、そこからステップアップしていくという流れ。

やっぱり最初から継続性をねらって何かを、というふうに考えてしまうと、難しいのかなと。講座等は、日にちが、近づく緊張したり、ちょっと行かなきゃ…という気持ちになってしまう子もいるようで。

村松委員 そういうパターンは、子供たちだけでなく、大人もそうですよね。

結局、ボランティアって、できる人ができるときにできることをやるっていう前提があるんですが、自分もずっと、行かなくちゃ、やらなくちゃ。というそういう雰囲気に縛られちゃう。何かそこに行きたい時だけ行って、できる時だけやっていいんだよという、そういう土台ができると、いいかなと。

これがなかなか難しく、ある人がそこ牛耳っちゃうと変わっていつてしまうんですよね。自分で最初に作ったグループを作ったんですが、そうなくなって、行きづらくなってしまったんです。そういうのが残念だなあと。

沖山委員 気軽に見えるようにするということですよ。スマホがない方は、カレンダーを見るとか。この日はこの講座、あの講座がまだ空いてますよみたいな。例えば金曜日に行って、明日ハンドメイドの講座がある。明日行けるから行きたいなこれって思ったときに、「満員」なのか「空き」があるのかわかったら、明日これ行きたいんですけどってすぐに申し込める。

あと、掲示板も見づらい。もっとまとまったものがあったら、気軽さという面では、違うかなっていう思うし、気持ちがのってれば申し込みやすいかなと。全部が全部そうになっていなくても、そういうものがどっかにポンッてあるというだけでも、違うでしょうね。準備が必要なものもありますよね。

足がかりとして、そんなに敷居が高くないんだという気軽さを出すという事が必要なんでしょうね。行ってそこで何するか、初めて決まるような場があってもいいという土台を作る方が厳しそうですね。

村松委員 岡崎市のイベントありましたよね、HAGGYさんの岡崎市と茅ヶ崎市の歴史クロストーク。私実は、お恥ずかしいことに、公民館からのお知らせを見てなくて、FM茅ヶ崎で知ったんです。展示が先で、こういうのをやっていますよ、というのを知って、申し込んだら1番でした。この手法（ラジオ）は使えるのでしょうか。

事務局 情報提供をしたところ話が繋がった状況です。観光協会の関係もあるので、情報を提供するだけになることもあります。広報手段については、費用がかかることもあるので、そういったメディアの方の目に留まって、向こうから取り組みを見せたり、情報発信をすることが課題かなと思います。

細田会長 大分いろんなお話が出てきまして、参考になる点、ポイントになる話し合いが沢山出てきました。答申案は、今回、吉原さんのみ書面での提出がありましたが、書面でなくてもご提出いただければと思います。最終的には、来年の3月に答申をする予定です。

今年の第2回審議会の時に校正を出したいと考えていますが、事務局としては、どうでしょうか。

事務局 事務局としては9月中のご提出をお願いしたいです。文章でなくても、箇条書きでも大丈夫です。各委員で意見をまとめてご提出ください。

細田会長 そうですね。皆さんの提出していただいたものをもとに、方向性を出して、まとめていくという形になります。

大澤委員 10月はどのような話し合いをされる予定でしょうか。具体的に、いつまでに書面を提出すればよいでしょうか？

事務局 具体的には9月10日を締切とさせていただきたいです。

細田会長 9月10日までに各委員の考えを事務局に提出。事務局が類似した項目等をまとめてくれます。それを10月の審議会で、どの項目について答えるか、という方向性、答申の骨子を決めるというイメージでおります。全員が言ったものが全て答申になるという形ではなく、10個項目が出てきたらその中の重要な3つほどに集約をして、答申を考えていくという流れです。いかがでしょうか。

大澤委員 それでは、9月10日までに個人の意見を紙でも電子でも良いので提出。それを事務局で分類していただいて、会に提示ということですね。

細田会長 はい。10月のテーマはそこがポイントですね。

大澤委員 すみません。あともう1つ。公民館の内容を色々調べていたら見つけたんですが、鶴嶺公民館が同じテーマで答申を出していますが、御存じですか。

事務局 はい。そうですね。公民館ごとに、地域の課題が異なるため、同じテーマではありますが、今年度の諮問とさせていただきました。

大澤委員 参考に拝見させてもらったんですが、私個人としては、現実的ではないな、と思ってしまった。綺麗すぎてしまって。

細田会長 色々多角的な物の見方がありますよね。例えば、公民館の立地的な条件や周辺の環境で、その公民館に見る目が、ちょっと違いますよね。

大澤委員 そうですね。

細田会長 最近出てる諮問と答申は、そういう意味では、参考になると思いますので、各

自ご確認ください。それでは、事務局から連絡事項の伝達ですね。
議題3その他にうつります。

事務局 事務局から連絡でございます。

1点目は、今年度の松林公民館まつりですが、今年度は3月8日、9日の土日で開催いたします。これから準備を進めていきたいと考えております。

内容的には今年度と同じような形になるかと思うんですが、学習成果の発表ということで、深くサークルのステージでの発表や、各サークルさんの作品の展示等を行いたいと思います。また模擬店の方も復活しておりまして、今回も募集する予定でございます。

今後は利用団体の方に通知を行い、実行委員を募り、実行委員会を立ち上げて準備を進めていく予定でございます。皆様もご承知おきください。

2点目は、次回の審議会の日程を当初の予定では10月としておりますが、10月のいつごろがよろしいか調整したいと思います。皆さんにお聞きしたいんですが、予定としては10月の24木曜日から25金曜日を考えていますが、いかがでしょうか。

(委員 調整)

事務局 それでは、10月24日木曜日の10時からということで皆さん予定していただければと思います。よろしくお願いいたします。

(一同 承認)

事務局 はい。ありがとうございます。事務局からは以上です。

細田会長 本日は非常に新たな課題ができました。皆さんの答申をまとめて、できるまでが大変だと先ほど申しましたが、御協力のほどよろしくお願いいたします。

以上をもちまして本日の会議を終了いたします。本日はありがとうございました。